

別記様式（第5条関係）

会議録

会議の名称	第4回福津市共働推進会議		
開催日時	令和7年10月17日（金） 午後4時から午後4時30分まで		
開催場所	ふくとぴあ 健康プラザ		
委員名	(1) 出席委員 嶋田 晓文、依田 浩敏、 奥 弘子、富松 享一、中川 孝晃、 宮木 裕子、山口 覚、山田 雄三 (2) 欠席委員 小林 真理		
所管課職員職氏名	市民共働部長 香田 知樹 市民共働部地域コミュニティ課長 谷口 篤 地域コミュニティ課市民共働推進係長 井上 真智子 地域コミュニティ課郷づくり支援係長 向井 恭子 地域コミュニティ課郷づくり支援係 松本 麻衣		
議題 (内容)	ワークショップの振り返り		
公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開		
非公開の理由	—		
傍聴者の数	2名		
資料の名称	—		
会議録の作成方針	<input type="checkbox"/> 録音テープを使用した全文記録		
	<input checked="" type="checkbox"/> 録音テープを使用した要点記録		
	<input type="checkbox"/> 要点記録		
	記録内容の確認方法 委員による確認		
その他の必要事項			

審議内容　（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

ワークショップの振り返り

（委員）

初対面の人も多かったが、皆さん積極的に話していた。今まで協議会同士の対話の場がなかったのではないかと感じた。また、郷づくりと自治会については、内容が混同していた。最後になるが、前回行われたワークショップと比較し、「このような会で良かった」と郷づくりの会長からお声があったことは良かったと思う。

（委員）

私がワークショップで感じたことは、常に自治会の話になることである。何度も条例制定の話に内容を戻したが、自治会の話に戻り、力不足を感じた。しかし、私のグループでは、30代の男性で、このワークショップに参加するに当たり、条例や規則、資料を読み込んでいる参加者の人がいた。前向きな人も多くいたため、希望を感じた。

（委員）

Cグループだったが、ワークショップを開始した時は、そもそも条例は必要なのかという重たい空気から始まった。しかし、何度か話している中で条例が実行の土台として必要であると、チャンネルが入った時から積極的に話すようになった。途中から想いがあふれている人もおり、収拾がつかないこともあった。

話し合いの中では、長く郷づくりに携わる人で「郷づくりとは何なのか？」と常に言われ、説明が難しく自治会との違いも分からぬという意見があった。また、郷づくりのキーワードは「楽しさ」であり、自治会は「眉間にしわをよせた世界」に感じることや郷づくりでしかできないスケール感があるという意見も出ていた。

郷づくりの現場の人から郷づくりの役割は、「次の世代のために新しくまちや地域の魅力を作ることができるもの」だと言われ、郷づくりの会長が言っていることが経験から言葉として出ていた。

長く郷づくりに携わる人の言葉を言語化し、郷づくりでしかできない魅力づくりをすることで、郷づくりの担い手を残し、子どもが愛着を持つのではないかと思う。自治会レベルの取組ではなく、郷づくりの取組として、多くの意見が出ていて良かった。これらの内容を上手に言語化ができたら良いと思う。

（委員）

私たちのグループの中でもすぐに自治会の話が出てきていた。皆さん自治会員であることには違いないため、どうしても自治会の話が出てくることは仕方がないことであると思った。また、地域性がそれぞれの8つの郷づくりにあるので、それを踏まえたところでの条例を作っていくかといけない難

しさもあるのではないかと思った。

(委員)

ワークショップの中で、「福間ではどうですか。」「神興の竹灯まつりすごいですね。」など、他の協議会同士でコミュニケーションや対話が生まれており、条例のことではないが、このような場があつて良かったと感じた。また、私も前回のワークショップと比較し、非常に前向きな話が多くあり、いろいろな準備や積み重ねがあったことでこのような会になったと思う。

最後に一つ、今年は水害もあり、防災について皆さんの意識が高まっていると感じた。

(副会長)

私もFグループで地域によっていろいろな特徴や課題もあり、条例一つに共通的にまとめていくことの難しさがあると感じた。そこをどのように扱っていくかを考えさせられた。協議会同士での交流や情報交換ができたことは、良かったと思う。

(委員)

前回のワークショップと比較して前向きな印象であった。いろいろ言つたが、ではどうしようかという話になっていた感覚がある。委員の皆さんも、何が起きても動じることがなく、構えて受け止めることにより落ち着きが生まれ、この落ち着きによって、このような雰囲気ができたのではないかと感じた。

この数年で協議会のメンバーが新しくなったことでフレッシュになっており、世代が若い人にスライドしてきている。今まででも、協議会にヒアリングを行い、前回のワークショップでも出てきた話が、何度も何度も出てきているような気もしたが、これらが明らかになってきた。誰が話しても結局そこに行くように最大公約数のようなものが、はっきり見えたことが良かった。我々も協議会の皆さんも共通のものが今日のこの場で確認し合えたと感じた。

ホワイトボードに最後発表した話を書いたが、皆さんが発表したとおりである。稼ぐことも含めて、主体性を損なわないようなものにしたほうがいいこと。自由度を高くし、協議会に面倒なことを押し付けないこと。実効性が大事だというような話が大きくあり、それに加え、防災はこれまで以上に大切であること。防災の備えをするべきであり、防災は繋がりを生みやすいということ。防災情報を共有しながら、連携をしていく話もあったが、他の協議会と協力するという意味において、防災というのは一つの方法になること。そのような話があった。

また、活動が目的ではなく、魅力づくりが目的であり、そのために活動しているということ。このことは、忘れないようにしようという意見が出していた。PRについては、市民参加の仕組みとして、コミュニティ・スクールとの連携により、長期的に子どもたちが徐々に馴染んでいくようなこともあるという意見もあった。さらに、市職員も担当課以外の人も混ざっていくことが大事であること。分かりやすい日本語で条例を表現することで、皆が郷づ

くりを理解し、参加しやすいようにすること。今日のような話し合いを続けていくことが、PRや市民参加の仕組みにつながるため、大事であるという話があった。

それに加え、自治会との関係性として、「郷づくりとの違いは何なのか」この位置づけと関係性をきちんと明記し、郷づくり推進協議会の皆さんも「地域の人に説明をしたい」「その言葉が欲しい」という想いもすごくあつたように感じた。これらの内容があぶり出され、明確化してきたと肌で見て思った。

(会長)

確かに前向き感を感じた。このことには、3つ理由がある。

第1に、災害で得た経験が生かされている面がある。神興東郷づくりでは7月から9月にかけて全13か所の自治会に自主防災組織の方が訪問し、いろいろなアドバイスをする取組をしているとのことだが、これまで「どうせうちは大丈夫だから」と迷惑がられていたという。しかし、実際に災害を経験することで自治会側の態度が変わり、2か所から感謝され、やりがいを感じたというお声があった。

第2に、コミュニティ・スクールの効果が出てきている面がある。中学生、高校生が協力してくれることで、それが勇気につながっているということであった。

第3に、この場が協議会どうしの交流の場となり、それが前向きにつながったと思う。

一方で、自治会をめぐっては課題も見えた。

第1に、すでに述べたように、自治会の話が常に出てきてしまうが、別に切り分けてやっていると言わないといけない。

第2に、市への依存心が見える。例えば、市内のある地域では、自治会費が2万円と高く、市から何か言ってほしいというお声があった。自治会はあくまで民間組織なので、市が自治会費に口を出すのはおかしい。残念な発言だったが、少しずつ変えていけたらと思う。

第3に、上西郷づくりの話になるが、草刈りなどの作業を自治会で行っているが、自治会に参加しない人たちがフリーライドしているということで不満の声があった。農林水産省の多面的機能の交付金を活用し、作業者に金銭的な報酬を出すことで、そうした不満が減るのではないかと考える。

最後にワークショップの場で言われて嬉しかったことがある。参加者の方から「2つのことを持って帰り、共有したいと思いました。“郷づくりは『攻め』、自治会は『守り』”ということと、“条例は「武器」である”ということです。」と言われたことである。分かりやすい一言で伝えることの大切さを感じた。

蛇足になるが、2点ほど。

第1に、PRが必要だと毎回でているが、面白いことをすれば、シークレットにしたとしても、人気がじわじわでるのではないかと思う。

第2に、災害時の協議会連携の取組ができれば、おそらく全国初なので、全国的なPRにつながると思う。

(事務局)

次回は、事務局から、素案を提示するということでよろしいか。

(会長)

言い残したことがないか各協議会に確認をしてほしい。

(事務局) 向井係長

承知した。

(会長)

条例に盛り込めたこと、盛り込めなかつたことが分かるかたちで出してほしい。

(事務局) 向井係長

承知した。次回は、2月5日（木）の15時から17時に実施する。そこで素案について意見もらい、修正し、5月頃の会議で確認していただきたい。

(会長)

以上で本日の会議は終了とする。